

16の私学共同出資によって設立された株式会社エデュースが 学校法人玉川学園と共同で学校におけるRPAの有用性を検証

株式会社エデュース（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本 雄一郎）は、学校法人玉川学園と共に学校業務へのRPA適用による業務生産性の比較試験の結果を発表した。

本実証実験はRPA適用協力先として学校法人玉川学園、ツール提供として株式会社NTTデータの協力のもと、2018年10月より純国産RPAツール「WinActor®」を使用して、短期間の実証実験を行った。



総 評

RPA適用により、業務時間は確実に短縮できる。

今回の実証実験では、経理部と人事部の2部署2業務を対象にRPAによる業務自動化の検証を行った。システム操作や、Microsoft Office（Excel、Access）製品操作などの現在の業務をRPAに置き換えた。結果として、RPA化した業務については50%に短縮される結果となった。また、担当者は処理結果の確認や後続処理のみに時間を割くだけで良くなり、さらに削減効果を体感する結果となった。

今後の課題は、定期的に現在の業務ルールや手順の見直しを図ることや、作成したシナリオの改善等を行い、最初に導入したままにしない体制を構築することである。また、小さな業務からスタートして、対象範囲を徐々に広げながら導入を進めていくことも重要である。

本結果を踏まえ、学校法人玉川学園では、RPAツールの導入に向けてさらなる検討を進めている。

本実証実験の概要は、以下のとおりである。

実験内容

- ・現在実施されている業務における処理時間と、RPA適用後の処理時間の比較
- ・現在は実施できていないが、RPA適用が可能な業務の時間測定

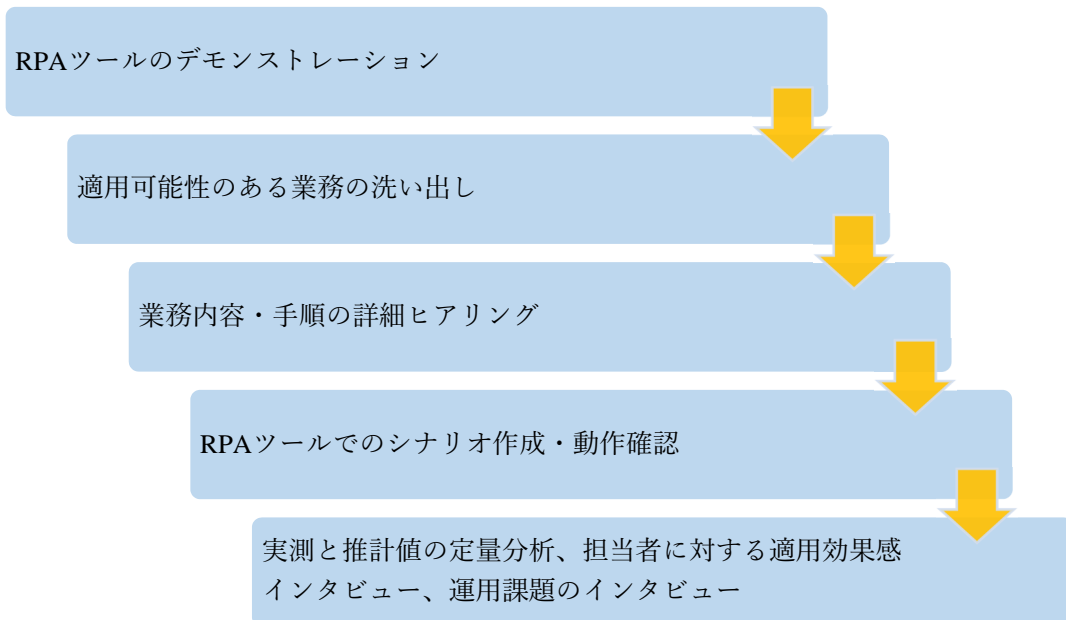
本実証実験の実施背景

少子化による収入減、生産性の高い事務組織体制の構築

学校法人においては、大量のデータ処理や、人の手を介さなければ業務が完成しないような処理が多数存在している。昨今、民間企業や官公庁を中心に適用が進んでいる RPA を学内で活用することで、生産性を高められないかということが期待されている。

そこで、本実証実験では、学校業務に対する RPA 適用の価値と安定運用のポイントを顕在化させるため、実際の学校業務環境において RPA ツールを適用することにより、適用前と適用後の業務処理時間の比較を行った。

実証実験のイメージ



対象業務

法人系 2 部署 2 業務を対象

【財務・経理系】

① 日次業務の入金情報消込処理に関する業務（FB データ受信業務）

【人事・総務系】

② 通勤定期券チェック業務

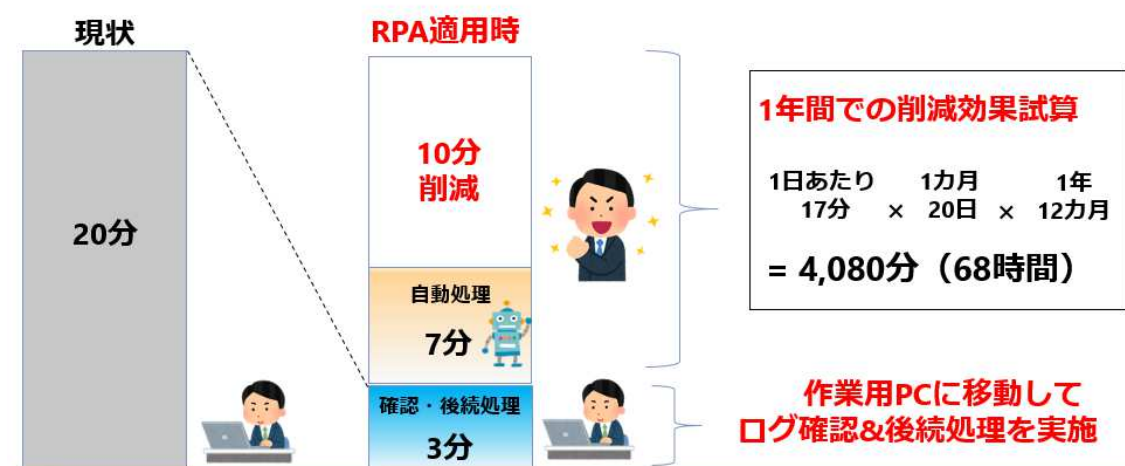
比較結果

対象業務時間が 50%短縮、人が関与する時間は 85%削減。

RPA ツールを活用して対象となる処理を実施した場合と、担当者が操作、確認を行った場合の測定時間と削減効果試算は下記のとおりである。

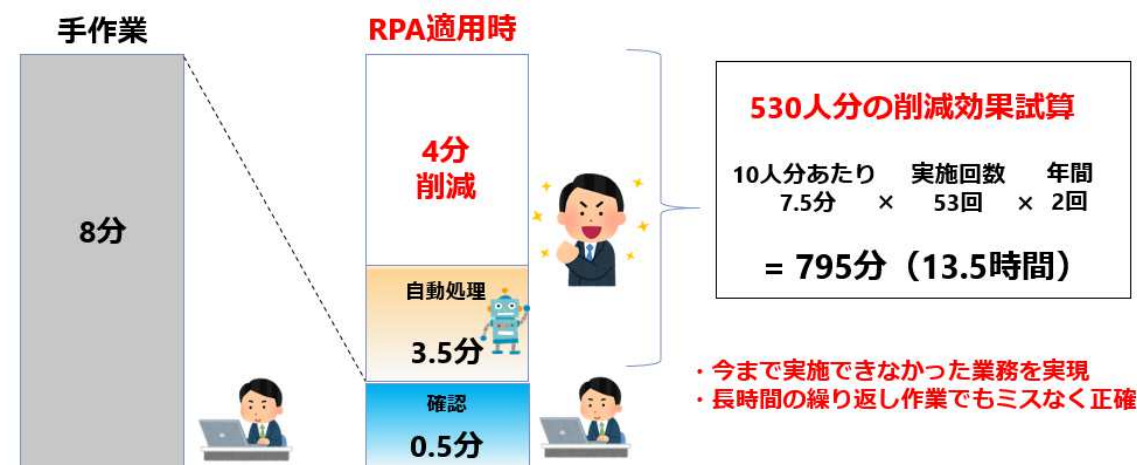
【財務・経理系】

① 日次業務の入金情報消込処理に関する業務（FB データ受信業務）



【人事・総務系】

② 通勤定期券チェック業務（10人分のチェック）



担当者が操作、確認を行った場合と、RPA を用いた場合の業務時間を比較すると、RPA を用いることで 50%短縮 させることができた。さらに、人間の関与する時間という意味では、入金情報消込処理では、20分から3分に削減、通勤定期券チェック業務では、8分から0.5分に削減された。また、RPA ツールを用いた場合のチェック精度は100%であり、ヒューマンエラー回避のためのダブルチェック体制そのものが不要となった。

RPA は学校業務にも適応できる。紙データへの対応にも期待。

対象業務あたりでの比較結果は 50%短縮となった。また、担当者の入れ替わり等を想定した場合、ミスや未習熟による処理時間の増大も無くなることとなり、中長期的な業務品質の維持という課題にも対応できることが確認された。

また、今回の実証実験では、絞り込んだ対象の業務の他にも、候補となった業務は複数存在した。学内のルールやデータ授受の在り方、期間等の理由により実験対象から外したが、RPA 適用対象業務の洗い出しの中で、非効率を感じている処理が多数存在することが明らかになった。今後は、法人系部署の業務のみならず、他部署にも対象範囲を広げることで全学的な展開につなげていくことも期待される。

さらに、学内には紙による処理がまだまだ多いことから、高精度な OCR ツールを活用することにより、一層の自動化可能性のある業務が存在することも確認された。

これからの学校経営において、RPA 導入は必然となる。

現在の日本の学校業界では収入規模を定員規模以上に確保することは困難であり、限られた経営資源の中で、増え続けるステークホルダーからの要求、主体的な教育の質向上への資源再配分を実施しなければ、進学年齢人口の減少環境の中で選ばれ続けることが難しい状況である。

今回の実証実験は、学校実務での RPA ツールの活用を通じて、学校における共通課題を乗り越えるための RPA 適用事例の構築、運用モデルの検討を行うことで、学校における業務の高度化、効率化という課題を RPA ツールで解決できる見通しの 1 つの成果となった。

本結果を受けて、実証実験に参加した学校法人玉川学園から、「総じて効果が高く、さらに他の業務においても活用の余地を検討していきたい」という意向が示された。

今回の実証実験の成果を踏まえ、株式会社エデュースでは、これまで蓄積してきた学校業務改善のコンサルティングノウハウを活かし、RPA を活用した学校業務の生産性向上に向けたサービスの提供を開始する。

学校法人玉川学園について

学校法人玉川学園は、1929年（昭和4年）に開校。幼稚園から大学（文学部・農学部・工学部・経営学部・教育学部・芸術学部・リベラルアーツ学部・観光学部）・大学院まで約1万2千人が61万㎡の広大なキャンパスに集う総合学園に発展し、幅広い教育活動を展開している。

株式会社エデュースについて

株式会社エデュースは、16の学校法人が共同出資する日本唯一の企業であり、学校経営支援に特化したパッケージシステムサービス、コンサルティングサービス等の事業を展開する企業として、2001年3月に設立。学校向けに特化した事業で培われた学校との関係性、蓄積された学校業務ノウハウを活かし学校経営の高度化、効率化への貢献を深めている。

【出資校一覧】

学校法人 大谷学園	学校法人 学習院	学校法人 共立女子学園
学校法人 國學院大學	学校法人 修道学園	学校法人 専修大学
学校法人 創価大学	学校法人 玉川学園	学校法人 千葉工業大学
学校法人 中央大学	学校法人 東京農業大学	学校法人 東京薬科大学
学校法人 東北学院	学校法人 松山大学	学校法人 明治大学
学校法人 早稲田大学		※五十音順

WinActor®について

「WinActor®」は国内導入シェア No1 の純国産 RPA ツールである。PC 上の操作をエミュレーション、画像処理等の技術を組み合わせ、「人間の操作を学習させることのできる」ツールである。将来的に AI 等の機会学習とも組み合わせたり、テキストから文章の意味を読み取ることや、人の暗黙知や感覚を学ぶことで、人に代わって、判断や情報の選び方を再現することができるようになることが期待されている。

RPA サービスについて

株式会社エデュースは、純国産 RPA ソリューション「WinActor®」の一次特約店契約を株式会社 NTT データと締結し、同製品の取扱を開始しました。

NTT データ販売特約店一覧 (<https://winactor.com/introduce/partners/>)

※WinActor®はエヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。

【本件に関するお問い合わせはこちら】

株式会社エデュース 営業部 担当：寺口、山崎

Tel : 03-5809-3191 / Mail : rpa0@educe-ac.com

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-3-10 PMO 秋葉原 II 5 階